

健康

自覚なく病状進行「沈黙の臓器」

肝臓 早めに検査を

肝臓は「沈黙の臓器」と呼ばれる。もしウイルス性肝炎に感染しても自覚症状が出にくい。知らずに病状が進行し、肝硬変や肝がんの原因になり、最悪の場合は死に至ることもある。また、近年は生活習慣の欧米化でアルコールを飲まない人の脂肪肝も増えている。早めに検査や治療をしなければ、肝硬変やがんに行進する場合もある。しかし、その事実を知らない人があまりにも多い。

徳島大学病院肝疾患相談室で無料検査ができるの談室では、肝炎検査の重で、ぜひ利用したい。徳島大学病院肝疾患相談室に電話を掛けるために、電話でも検査実施医療機関の情報を提供している。県内のイベントでの「ウイルス性肝炎に感染している人も気をつけてほしい」。肝疾患相談室の山田真一郎室長と消化器内科の田中貴大医師は強調する。

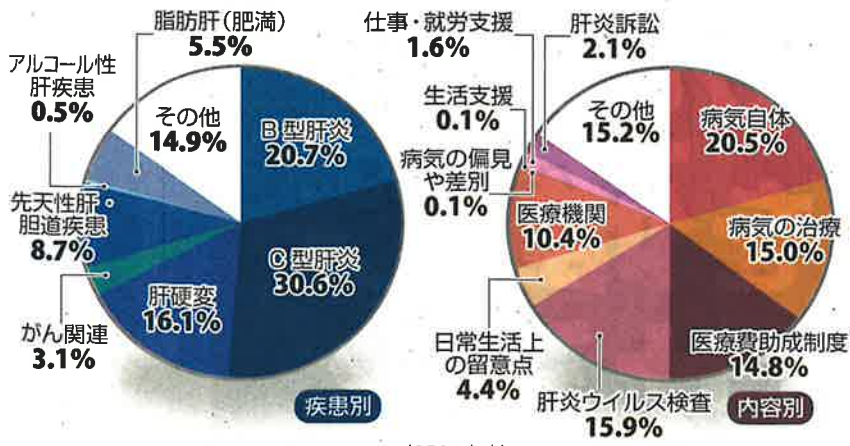
慢性ウイルス性肝炎の原因になるのは主にB型とC型で、約70%がC型、15%ほどがB型といわれている。B型、C型は強調整する。治療は内服薬でできず、注射針の乱用、入れ墨、ピアスの穴開けなど、血液を介して感染するといわれる。B型は特に母子感染や性交渉で感染することが多いといわれている。

ウイルス肝炎検査は、採血によって簡単にできるが、職場などの定期健診では検査の項目に含まれていない。各保健所や県内141の医療機関の進行や発がんリスクを

軽減することにつながる。ただ、ウイルス性肝炎治療の問題は、経済的に負担が大きいことだ。自分で一日数万円、8週間治療すると数百万円かかる。健康保険を利用した3割負担でもかなりの高額はなる。

徳大病院相談室 呼び掛け

徳島大学病院肝疾患相談室への相談



「治療費助成制度を活用すると、誰でも治療を受けることができる」ということを、ぜひ知ってほしい。相談室の立木佐知子看護師は呼び掛ける。県が行っている治療費助成制度を活用すると、毎月1万円あるいは2万円

徳島大学病院肝疾患相談室
電話 0888(933)6002
(平日午前8時半～午後5時)

(2019年度)